



(様式第 10)

高大医医発第 15 号
平成 28 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

(管理者)

高知大学医学部附属病院長 横山 彰仁

高知大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒780-8520 高知県高知市曙町二丁目5番1号
氏 名	国立大学法人高知大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

高知大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮185番地1 電話(088)-866-5811

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜。

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 循環器内科 2 神経内科	
診療実績 (該当なし)	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
1 消化器外科 2 心臓血管外科 3 乳腺・内分泌外科 4 形成外科 5 頭頸部外科	
診療実績 (該当なし)	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	7産婦人科
⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1 歯科口腔外科	
歯科の診療体制 本院は開院時より歯科医療機関として認可を受け、適切な体制のもとに歯科診療を行っている。 現在、常勤歯科医師5名、非常勤歯科医師9名が従事しており、平成27年度は1日あたり外来患者83.0人、入院患者10.3人の歯科診療を行っている。	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科 2 病理診断科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
30床	0床	0床	0床	583床	613床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成28年10月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	175人	161人	307.3人	看 護 補 助 者	59人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	5人	9人	11.2人	理 学 療 法 士	12人	臨床検査技師	48人
薬 剤 師	38人	0人	38人	作 業 療 法 士	7人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	6人	そ の 他	0人
助 産 師	10人	3人	13人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	501人	82人	577.1人	臨 床 工 学 士	21人	医療社会事業従事者	9人
准 看 護 師	0人	1人	1人	栄 養 士	0人	その他の技術員	10人
歯科衛生士	0人	5人	5人	歯 科 技 工 士	2人	事 務 職 員	163人
管理栄養士	7人	2人	9人	診療放射線技師	29人	その他の職員	50人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成28年10月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	36人	眼 科 専 門 医	12人
外 科 専 門 医	23人	耳鼻咽喉科専門医	6人
精 神 科 専 門 医	8人	放射線科専門医	13人
小 児 科 専 門 医	13人	脳神経外科専門医	7人
皮 膚 科 専 門 医	12人	整形外科専門医	11人
泌尿器科専門医	9人	麻 酔 科 専 門 医	10人
産婦人科専門医	8人	救 急 科 専 門 医	4人
		合 計	172人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名(横山 彰仁) 任命年月日 平成26年 4月 1日

経過措置(平成30年4月1日以後に任命した管理者に限り記載)に該当

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日当たり平均入院患者数	449.4人	10.3人	459.7人
1 日当たり平均外来患者数	955.5人	83.0人	1,038.5人
1 日 当 たり 平 均 調 剤 数	584剤		
必要医師数	108人		
必要歯科医師数	5人		
必要薬剤師数	17人		
必要（准）看護師数	280人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	254.442m ²	鉄筋コンクリート	病床数	12床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 105.85m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数 6床			
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 m ² [共用室の場合] 共用する室名		病棟薬剤業務室・薬品情報室			
化学検査室	584m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動血球計数装置 塗沫標本作製装置 血液凝固測定装置 全自動生化学分析装置 自動免疫化学測定装置 血液ガス分析装置 血糖測定装置 ヘモグロビンA1C測定装置 酵素免疫測定装置 肝炎ウィルス関連検査			
細菌検査室	142m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 炭酸ガス培養装置 孵卵器 自動細菌検査装置 自動血液培養装置 嫌気培養装置 安全キャビネット 高圧蒸気滅菌器			
病理検査室	223m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ドラフトチャンバー			
病理解剖室	58m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 陰圧室、解剖台			
研究室	5002m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 流し台、実験台			
講義室	283m ²	鉄筋コンクリート	室数 1室	収容定員 264人		
図書室	897m ²	鉄筋コンクリート	室数 7室	蔵書数 13万冊程度		

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算 定 期 間		平成27年 4月 1日～平成28年 3月3日	
紹介率	74.0%	逆紹介率	60.1%
算出根拠	A：紹介患者の数		10,578人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		9,137人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		677人
	D：初診の患者の数		15,200人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	
	平成 29 年 4 月 1 日措置予定

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
骨髄細胞移植による血管新生療法	1人
硬膜外自家血注入療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
該当なし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
2	球脊髄性筋萎縮症	56	ベーチェット病	65
17	筋萎縮性側索硬化症	57	特発性拡張型心筋症	35
	脊髄性筋萎縮症	58	肥大型心筋症	9
	原発性側索硬化症	59	拘束型心筋症	
9	進行性核上性麻痺	60	再生不良性貧血	19
56	パーキンソン病	61	自己免疫性溶血性貧血	1
6	大脳皮質基底核変性症	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	4
2	ハンチントン病	63	特発性血小板減少性紫斑病	39
	神経有棘赤血球症	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
1	シャルコー・マリー・トゥース病	65	原発性免疫不全症候群	2
31	重症筋無力症	66	IgA 腎症	26
3	先天性筋無力症候群	67	多発性嚢胞腎	16
20	多発性硬化症／視神経脊髄炎	68	黄色靱帯骨化症	13
3	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	69	後縦靱帯骨化症	60
	封入体筋炎	70	広範脊柱管狭窄症	4
	クロー・深瀬症候群	71	特発性大腿骨頭壊死症	33
14	多系統萎縮症	72	下垂体性ADH分泌異常症	8
32	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	73	下垂体性TSH分泌亢進症	
9	ライソゾーム病	74	下垂体性PRL分泌亢進症	2
	副腎白質ジストロフィー	75	クッシング病	5
1	ミトコンドリア病	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	
15	もやもや病	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	11
	プリオン病	78	下垂体前葉機能低下症	22
2	亜急性硬化性全脳炎	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
	進行性多巣性白質脳症	80	甲状腺ホルモン不応症	
1	HTLV-1関連脊髄症	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
	特発性基底核石灰化症	82	先天性副腎低形成症	
11	全身性アミロイドーシス	83	アジソン病	
	ウルリッヒ病	84	サルコイドーシス	95
	遠位型ミオパチー	85	特発性間質性肺炎	12
	ベスレムミオパチー	86	肺動脈性肺高血圧症	6
	自己食空胞性ミオパチー	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	
	シュワルツ・ヤンベル症候群	88	慢性血栓性肺高血圧症	9
7	神経線維腫症	89	リンパ脈管筋腫症	1
15	天疱瘡	90	網膜色素変性症	18
3	表皮水疱症	91	バッド・キアリ症候群	1
10	膿疱性乾癬(汎発型)	92	特発性門脈圧亢進症	
	スティーヴンス・ジョンソン症候群	93	原発性胆汁性肝硬変	20
	中毒性表皮壊死症	94	原発性硬化性胆管炎	2
8	高安動脈炎	95	自己免疫性肝炎	11
1	巨細胞性動脈炎	96	クローン病	31
14	結節性多発動脈炎	97	潰瘍性大腸炎	61
17	顕微鏡的多発血管炎	98	好酸球性消化管疾患	2
2	多発血管炎性肉芽腫症	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
5	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
13	悪性関節リウマチ	101	腸管神経節細胞減少症	
11	バージャー病	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
3	原発性抗リン脂質抗体症候群	103	CFC症候群	
155	全身性エリテマトーデス	104	コステロ症候群	
74	皮膚筋炎／多発性筋炎	105	チャージ症候群	
103	全身性強皮症	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
28	混合性結合組織病	107	全身型若年性特発性関節炎	1
18	シェーグレン症候群	108	TNF受容体関連周期性症候群	
8	成人スチル病	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	
1	再発性多発軟骨炎	110	ブラウ症候群	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	161	家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	5
113	筋ジストロフィー	3	特発性後天性全身性無汗症	
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	164	眼皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺	165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎	166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症	1	マルファン症候群	
118	脊髄髄膜瘤	168	エーラス・ダンロス症候群	
119	アイザックス症候群	169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア	170	オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症	171	ウィルソン病	3
122	脳表ヘモジデリン沈着症	172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	1	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群	176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症	1	有馬症候群	
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症	180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病	181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺	182	アペール症候群	
133	メビウス症候群	183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	184	アントレー・ピクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群	185	コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症	186	ロスマンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成	187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症	188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症	189	無脾症候群	
140	ドラベ症候群	190	鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	191	ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠神てんかん	192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	193	ブラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群	194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群	195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群	196	ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症	197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎	201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群	202	スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	203	22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群	205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群	206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群	207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症	208	修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症	209	完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬	210	単心室症	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症	1	260 シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261 タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262 原発性高カイトミクロン血症	
215	ファロー四徴症		263 脳髄黄色腫症	
216	両大血管右室起始症		264 無βリボタンパク血症	
217	エプスタイン病		265 脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群		266 家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モフト症候群		267 高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268 中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269 化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	11	270 慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		271 強直性脊椎炎	11
224	紫斑病性腎炎	2	272 進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273 肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274 骨形成不全症	
227	オスラー病		275 タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276 軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277 リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278 巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279 巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280 巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
233	ウォルフラム症候群		281 クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282 先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症		283 後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症		284 ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285 ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286 遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287 エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症	1	288 自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289 クロンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290 非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291 ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸	
244	メーブルシロップ尿症		292 総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293 総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294 先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295 乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296 胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297 アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298 遺伝性膀胱炎	
251	尿素サイクル異常症		299 嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300 IgG4関連疾患	7
253	先天性葉酸吸収不全		301 黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症		302 レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303 アッシャー症候群	
256	筋型糖原病		304 若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305 遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	306	好酸球性副鼻腔炎	5

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・歯科外来診療環境体制加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・歯科診療特別対応連携加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・特定機能病院入院基本料	・小児入院医療管理料2
・超急性期脳卒中加算	・入院時食事療養／生活療養(I)
・診療録管理体制加算1	
・医師事務作業補助体制加算1	・
・急性期看護補助体制加算	・
・看護職員夜間配置加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・
・データ提出加算2	・
・退院支援加算2	・
・退院支援加算3	・
・精神疾患診療体制加算	・
・特定集中治療室管理料1	・
・ハイケアユニット入院医療管理料1	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

1/3

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・高度難聴指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・糖尿病合併症管理料	・人工臓器検査及び人工臓器療法
・がん性疼痛緩和指導管理料	・中枢神経磁気刺激による誘発筋電図
・がん患者指導管理料1	・神経学的検査
・がん患者指導管理料2	・補聴器適合検査
・がん患者指導管理料3	・小児食物アレルギー負荷検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・内服・点滴誘発試験
・外来放射線照射診療料	・有床義歯咀嚼機能検査
・ニコチン依存症管理料	・画像診断管理加算1
・開放型病院共同指導料	・画像診断管理加算2
・がん治療連携計画策定料	・ポジトロン断層撮影
・がん治療連携管理料	・ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・CT撮影及びMRI撮影
・薬剤管理指導料	・冠動脈CT撮影加算
・医療機器安全管理料1	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料2	・乳房MRI撮影加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・歯科治療総合医療管理料(Ⅰ)及び(Ⅱ)	・外来化学療法加算1
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・無菌製剤処理料
・遺伝学的検査	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・国際標準検査管理加算	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・遺伝カウンセリング加算	・がん患者リハビリテーション料
・胎児心エコー法	・集団コミュニケーション療法料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

2/3

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科口腔リハビリテーション料2	・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・精神科作業療法	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・認知療法・認知行動療法2	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・医療保護入院等診療料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・硬膜外自家血注入	・経皮的中隔心筋焼灼術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・磁気による膀胱等刺激法	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・手術用顕微鏡加算	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術
・う蝕歯無痛の窩洞形成加算及び手術時歯根面レーザー応用加算	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・CAD/CAM冠	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・歯科技工加算1及び2	・補助人工心臓
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を行うものに限る。)
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・体外衝撃波胆石破碎術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	・腹腔鏡下肝切除術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・羊膜移植術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・膀胱水圧拡張術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・人工内耳埋込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・医科点数表第2章第10部手術の通則16に掲げる手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・輸血管理料 I

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

3/3

施設基準の種類	施設基準の種類
・輸血適正使用加算	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・
・歯周組織再生誘導手術	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・歯根端切除手術の注3	・
・麻酔管理料(Ⅰ)	・
・麻酔管理料(Ⅱ)	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・1回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・直線加速器による放射線治療(定位放射線治療)	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・
・保険医療機関の連携による病理診断	・
・病理診断管理加算2	・
・口腔病理診断管理加算2	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・歯科矯正診断料	・
・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係わるもの)	・
	・
・	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	・
・硬膜外自家血注入療法	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月8回程度
剖 検 の 状 況	剖検症例数 18 例 / 剖検率 10.0 %

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムの構築のための研究	小野 正文	光学医療診療部	500,000	補委 独立行政法人 国立国際医療研究センター
非アルコール性脂肪肝炎の肝病態におけるインクレチン作用機序の解明	岡本 宣人	光学医療診療部	910,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
低分子量 G タンパク質の肝癌浸潤・転移への関与	岩崎 信二	消化器内科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
NASH発症における自然免疫防御反応とKupffer細胞の機能分化の解析	小野 正文	消化器内科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
AGE-RAGE系とレニン・アンギオテンシン系を介したNASH肝線維化メカニズム	廣瀬 亨	消化器内科学	2,210,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
胃内ピロリ菌フローラ(遺伝子多様性)形成と各種疾患・病態との関連性の解明	水田 洋	消化器内科学	2,600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
PNPLA3遺伝子改変マウスを用いたERストレスを介するNASH発症・病因の解明	小笠原 光成	消化器内科学	2,600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
自然肝発症するNASHモデルマウスでのPPAR- α を介した発症抑制の分子機構	西原 利治	消化器内科学	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
藤がん細胞から分泌されたエクソソーム由来RNAを用いた新規診断マーカーの開発	谷内 恵介	消化器内科学	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
エクソソーム内microRNAを活用した次世代腎臓病バイオマーカーと治療法の開発	堀野 太郎	内分泌代謝・腎臓内科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
グルコシルチコイドによる耐糖能障害におけるTBP-2の役割の解明	藤本 新平	内分泌代謝・腎臓内科学	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
急性腎障害の病態におけるミトコンドリア機能とマイトファジーの意義の解明	大出 佳寿	内分泌代謝・腎臓内科学	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
甲状腺癌細胞における細胞内エネルギー/糖代謝調節機構の解明と抗癌治療戦略の構築	田口 崇文	内分泌代謝・腎臓内科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
IgG4関連疾患の新規診断法の確立、病態解明、その腫瘍化の検討	谷口 義典	内分泌代謝・腎臓内科学	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
急性腎障害のミトコンドリア機能保護とマイトファジーによる新規治療法の開発	緒方 巧二	内分泌代謝・腎臓内科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
急性腎障害でのミトコンドリアとインフラゾームの調整による新規治療法の開発	寺田 典生	内分泌代謝・腎臓内科学	2,210,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
視床下部 Agouti 関連蛋白のクッシング症候群における役割の解明	中山 修一	内分泌代謝・腎臓内科学	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
サイログロブリン遺伝子異常症の臨床像および甲状腺癌発症メカニズムの解明	次田 誠	内分泌代謝・腎臓内科学	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
成人の重症肺炎サーベイランス構築に関する研究	横山 彰仁	血液・呼吸器内科学	500,000	補委 国立感染症研究所 感染症疫学センター
ヒトMUC1発現マウスを用いた肺障害モデルにおけるバイオマーカーの動態解析	窪田 哲也	血液・呼吸器内科学	910,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
トロンボモジュリン変異体による新規血管内皮保護薬の開発	池添 隆之	血液・呼吸器内科学	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
悪性腫瘍における新規癌ウイルス感染実態の解析と発症との関連について	谷口 亜裕子	血液・呼吸器内科学	650,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
テラスパニンCD82を標的とした新規白血病治療法確立のための基礎研究	西岡 千恵	血液・呼吸器内科学	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
肥大型心筋症の病因遺伝子解析と病態修飾因子の解明	久保 亨	老年病・循環器・神経内科学	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
病初期・未治療パーキンソン病における非運動症状と脳機能画像の追跡	大崎 康史	老年病・循環器・神経内科学	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

小計25

35,710,000

小計25

EBウイルス感染に伴い発現変化するBリンパ腫細胞遺伝子の網羅的解析	藤枝 幹也	小児思春期医学	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
思春期のうつ病の早期発見と心理教育	下寺 信次	神経精神科学	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
治療標的遺伝子のメチル化及びCNVによる気分障害の治療抵抗性マーカーの創出	森信 繁	神経精神科学	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
多面的アプローチを用いた高次脳機能障害患者の復職支援プログラムの開発	上村 直人	神経精神科学	1,500,000	補委	熊本大学
乾癬の重症度に相関する新たな分子LRGの役割:乾癬及びマウスモデルでの解析	中島 英貴	皮膚科学	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
再プログラム因子導入による間葉上皮移行の誘導と癌浸潤の制御	高橋 樹朗	皮膚科学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
乾癬に関わるランゲルハンス細胞の役割:モデルマウスを用いた解析	山本 真有子	皮膚科学	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
IL-36シグナルを介した表皮細胞-樹状細胞間クロストークによる乾癬発症機序解明	大湖 健太郎	皮膚科学	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
発症機序最上流に表皮バリア機能異常があるという新視点による乾癬表皮・免疫病態解明	中島 喜美子	皮膚科学	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
紫外線照射による全身性ループス増悪の病態解明	佐野 栄紀	皮膚科学	6,890,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
子宮筋腫に対する凍結療法における画像診断学及び組織学的検討	山上 卓士	放射線医学	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腫瘍内で過酸化水素を徐放する新規放射線増感剤の開発に関する実験的研究	小川 恭弘	放射線医学	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腎癌に対する腎動脈閉塞下凍結療法の確立	吉松 梨香	放射線医学	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
人工臓器を用いた新しい血糖変動モデルの確立と血糖変動が生体に及ぼす病態の解明	花崎 和弘	外科学(外科1)	2,340,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
3Dエコーガイドによる心拍動下心臓内手術の基盤技術の確立	渡橋 和政	外科学(外科2)	2,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Shaggy aortaに対する新たな治療法-メッシュグラフト-の開発	福富 敬	外科学(外科2)	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
輝度測定法を併用したICG血管造影法による術中血流評価技術の再開発	山本 正樹	外科学(外科2)	1,950,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
3次元画像投影と近赤外線マスキングによる新規イメージガイド手術支援システムの開発	穴山 貴嗣	外科学(外科2)	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
心音を用いたPEPの測定と循環管理への応用	山下 幸一	麻酔・蘇生学	2,340,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
術後認知機能障害の分子機序解明と周術期予防戦略	河野 崇	麻酔・蘇生学	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
神経障害性疼痛における海馬BDNFの役割と治療応用への基礎的研究	横山 正尚	麻酔・蘇生学	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
集中治療患者における蛋白投与量が予後に与える影響に関する多国間多施設共同研究	矢田部 智昭	麻酔・蘇生学	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
慢性的痛み診療の基盤となる情報の集約とより高度な診療の為に医療システム構築に関する研究	横山 正尚	麻酔・蘇生学	800,000	補委	愛知医科大学
関節疾患におけるアシドーシス起因性疼痛と関節破壊のメカニズム	池内 昌彦	麻酔・蘇生学	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自己免疫性眼炎疾患における制御性T細胞の役割の解明	福島 敦樹	眼科学	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
パクリオファージの溶菌活性を利用した細菌感染性眼疾患の新規治療法の開発	福田 憲	眼科学	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
温度感覚刺激、嗅覚刺激を介した新たな嚥下障害治療法の開発と嚥下機能の解明	松本 宗一	耳鼻咽喉科学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
パクリオファージの溶菌活性を利用した慢性中耳炎の新規治療法確立のための基礎研究	小森 正博	耳鼻咽喉科学	3,250,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

小計28

48,710,000

小計28

4Dコンピュータグラフィックスによる嚥下メカニクスの可視化と嚥下障害治療への応用	兵頭 政光	耳鼻咽喉科学	2,340,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
嚥下に関わる脳の神経制御機構のイメージング解析と脳の可塑性からみた嚥下障害治療	兵頭 政光	耳鼻咽喉科学	7,670,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
痙攣性発声障害の診断基準および重症度分類の策定に関する研究	兵頭 政光	耳鼻咽喉科学	988,000	補委	高知大学
悪性脳腫瘍におけるゲノムグローバルなヒストン修飾制御因子の探索	八幡 俊男	脳神経外科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
悪性脳腫瘍の分化制御におけるメチル化CpG結合タンパクMBD1の機能的解析	上羽 哲也	脳神経外科	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
スピリリナを用いた悪性グリオーマに対する新たな免疫療法の開発	川西 裕	脳神経外科	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ゲノムインプリンティングの異常によるマウス脳腫瘍モデルの構築	福田 真紀	脳神経外科	2,470,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
膀胱癌におけるヘムオキシゲナーゼ1の役割の解明と発現誘導による抗癌効果の検討	井上 啓史	泌尿器科学	260,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腎がんに対するイミキモドとチロシンキナーゼ阻害剤の新規併用療法	辛島 尚	泌尿器科学	2,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
口腔扁平苔癬発症におけるインフラマソームの関わり	北村 尚也	歯科口腔外科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
口腔癌における腫瘍関連マクロファージによる抗癌剤耐性機序の解明	笹部 衣里	歯科口腔外科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
SPARCを介する細胞競合制御による口腔扁平上皮癌の予防に向けての基礎的研究	山本 哲也	歯科口腔外科	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
口腔癌における血清エクソソームを用いた診断法の開発	國藤 潤	歯科口腔外科	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
PRF+ナノアパタイトと脂肪幹細胞による顎骨再生療法の基礎研究	吉澤 泰昌	歯科口腔外科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
積極的監視培養および除菌による病棟内MRSA分離率の低減	武内 世生	総合診療部	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ピロリ菌体膜蛋白による血小板活性化とマクロファージの免疫応答に関する解析	森本 徳仁	検査部	1,950,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
蛋白分画波形を用いた栄養モニタリングを支援する微量元素の推定	久原 太助	検査部	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
感染・炎症に関連して発生する呼吸器腫瘍の病態および腫瘍化機構の解明	上岡 樹生	病態情報診断学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
急性冠症候群におけるピロリ菌由来血小板活性化成分とマクロファージの関与	杉浦 哲朗	病態情報診断学	3,510,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ピロリ菌の細胞分裂・形態制御機構とその関連病態(病原性)の解明	竹内 啓晃	病態情報診断学	2,860,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脂肪由来間葉系幹細胞のサイトカイン機能解析と効率的な脳梗塞再生治療法の開発	古田 興之助	救急部	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
膝痛の局在の違いが痛覚過敏と膝周囲筋力に及ぼす影響	小田 翔太	リハビリテーション部	500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
易転倒方向の個人差分分析機器開発とその有用性の実証	永野 靖典	リハビリテーション部	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
筋電計による小殿筋の質的評価と小殿筋の選択的筋力強化方法の検討	室伏 祐介	リハビリテーション部	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
認知機能障害による2次介護予防対象者への、新しい評価法の検証と訓練の有用性調査	石田 健司	リハビリテーション部	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
虚弱高齢者のための児童・生徒参加型高齢者健診と運動器リハモデルに関する研究	永野 靖典	リハビリテーション部	400,000	補委	黒潮町
高齢化社会に対応する経皮吸収型嚥下機能改善剤の開発	宮村 充彦	薬剤部	520,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ショウガを利用した嚥下反射改善能を有する口腔内崩壊錠の開発	阿部 譲朗	薬剤部	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

小計28

46,478,000

小計28

平成27年度高知県産学官連携産業創出研究推進事業委託業務「ショウガを利用した糖下機能改善品の開発」	宮村 充彦	薬剤部	19,074,884	補 委	高知県
平成27年度高知県産学官連携産業創出研究推進事業(育成研究)委託業務「碁石茶飲料中の機能性成分の同定と機能性の検討」	宮村 充彦	薬剤部	1,499,997	補 委	高知県

4/4

小計2

小計2 20,574,881

合計83 151,472,881

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題 名	雑 誌 名
1	Taniuchi K	光学医療診療部	Focal Intramucosal Adenocarcinoma Occurring in Gastric Hyperplastic Polyps: Two Case Reports.	Case Rep Gastrointest Med. 2015;2015:201042.
2	Taniuchi K	光学医療診療部	Intramucosal Signet Ring Cell Gastric Cancer Diagnosed 15 Months after the Initial Endoscopic Examination.	Case Rep Med. 2015;2015:479625.
3	Ochi T	内科(消化器)	Patatin-like phospholipase domain-containing protein 3 is involved in hepatic fatty acid and triglyceride metabolism through X-box binding protein 1 and modulation of endoplasmic reticulum stress in mice.	Hepatology Res. Epub 2016 Feb 2.
4	Shimamura Y	内科(内分泌代謝・腎臓)	Granulomatous periostitis and tracheal involvement in sarcoidosis.	Rheumatology (Oxford). 2016 Jan;55(1):102.
5	Taniguchi Y	内科(内分泌代謝・腎臓)	Polyarteritis Nodosa of the Iliopsoas Muscle.	Arthritis Rheumatol. 2015 Sep;67(9):2426.
6	Matsumoto T	内科(内分泌代謝・腎臓)	Small Heat Shock Protein Beta-1 (HSPB1) Is Upregulated and Regulates Autophagy and Apoptosis of Renal Tubular Cells in Acute Kidney Injury.	PLoS One. 2015 May 11;10(5):e0126229.
7	Shimamura Y	内科(内分泌代謝・腎臓)	Polyarteritis nodosa confined to the breasts associated with polyarthralgia.	Mod Rheumatol. 2016;26(1):159-60.
8	Taguchi T	内科(内分泌代謝・腎臓)	Natural progression of a sporadic pheochromocytoma over 15 years.	Endocrine. 2015 Jun;49(2):572-3.
9	Taguchi T	内科(内分泌代謝・腎臓)	Graves' dermopathy and acropachy.	Endocrine. 2015 May;49(1):296-7.
10	Nishioka C	内科(血液・呼吸器)	Tetraspanin Family Member, CD82, Regulates Expression of EZH2 via Inactivation of p38 MAPK Signaling in Leukemia Cells.	PLoS One. 2015 May 8;10(5):e0125017.
11	Nishioka C	内科(血液・呼吸器)	Blockade of CD82 by a monoclonal antibody potentiates anti-leukemia effects of AraC in vivo.	Cancer Med. 2015 Sep;4(9):1426-31.
12	Chi S	内科(血液・呼吸器)	Disseminated intravascular coagulation in non-Hodgkin lymphoma.	Int J Hematol. 2015 Oct;102(4):413-9.
13	Nishioka C	内科(血液・呼吸器)	The novel function of CD82 and its impact on BCL2L12 via AKT/STAT5 signal pathway in acute myelogenous leukemia cells.	Leukemia. 2015 Dec;29(12):2296-306.
14	Taniguchi A	内科(血液・呼吸器)	Epstein-Barr Virus-Positive Pyothorax-Associated Lymphoma Arising from a Posttraumatic Empyema.	Acta Haematol. 2015;134(3):155-60.

15	Sakai M	内科(血液・呼吸器)	Successful re-administration of lenalidomide after lenalidomide-induced pulmonary alveolar hemorrhage in a patient with refractory myeloma.	Ann Hematol. 2015 May;94(5):891-2.
16	Kubo T	内科(老年病・循環器)	Differentiation of infiltrative cardiomyopathy from hypertrophic cardiomyopathy using high-sensitivity cardiac troponin T: a case-control study.	BMC Cardiovasc Disord. 2015 Jun 16;15:53.
17	Terauchi Y	内科(老年病・循環器)	Gender differences in the clinical features of hypertrophic cardiomyopathy caused by cardiac myosin-binding protein C gene mutations.	J Cardiol. 2015 May;65(5):423-8.
18	Baba Y	内科(老年病・循環器)	Clinical significance of high-sensitivity cardiac troponin T in patients with dilated cardiomyopathy.	Int Heart J. 2015 May 13;56(3):309-13.
19	Nakashima Y	内科(老年病・循環器)	Metastatic cardiac tumor from urothelial carcinoma detected by transthoracic echocardiography: a case report.	J Med Case Rep. 2015 Nov 16;9:257.
20	Kubo T	内科(老年病・循環器)	Biomarkers related to hemodynamic abnormalities with high shear stress.	J Cardiol. 2016 Feb;67(2):213.
21	Kubo T	内科(老年病・循環器)	Erythrocyte creatine as a marker of intravascular hemolysis due to left ventricular outflow tract obstruction in hypertrophic cardiomyopathy.	J Cardiol. 2016 Mar;67(3):274-8.
22	Takamura S	精神科	Schizophrenia as a prodromal symptom in a patient harboring SNCA duplication.	Parkinsonism Relat Disord. Epub 2016 Feb 8.
23	Nakajima H	皮膚科	Primary cutaneous adenoid cystic carcinoma arising from folliculitis decalvans.	J Dermatol. 2015 Jul;42(7):741-3.
24	Hanazaki K	外科1	Tight glycemic control using an artificial pancreas is useful for surgical patients with uncontrolled perioperative hyperglycemia.	Ann Surg. 2016 Mar;263(3):e50.
25	Kitagawa H	外科1	Visualization of the Stomach's Arterial Networks During Esophageal Surgery Using the HyperEye Medical System.	Anticancer Res. 2015 Nov;35(11):6201-5.
26	Namikawa T	外科1	Clinical efficacy of protein-bound polysaccharide K in patients with gastric cancer undergoing chemotherapy with an oral fluoropyrimidine (S-1).	Eur J Surg Oncol. 2015 Jun;41(6):795-800.
27	Namikawa T	外科1	Factors that minimize postgastrectomy symptoms following pylorus-preserving gastrectomy: assessment using a newly developed scale (PGSAS-45).	Gastric Cancer. 2015 Apr;18(2):397-406.
28	Namikawa T	外科1	Esophageal tumor after radical surgery for gastric cancer.	Gastroenterology. 2015 Apr;148(4):e9-10.
29	Namikawa T	外科1	An unusual giant duodenal mass lesion.	Gastroenterology. 2015 May;148(5):e5-6.
30	Namikawa T	外科1	Multiple adenocarcinomas in intrathoracic upside-down stomach.	Gastrointest Endosc. 2015 Aug;82(2):411-2; discussion 412.

31	Munekage M	外科1	An artificial pancreas provided a novel model of blood glucose level variability in beagles.	J Artif Organs. 2015 Dec;18(4):387-90.
32	Munekage M	外科1	Comparison of subcutaneous and intravenous continuous glucose monitoring accuracy in an operating room and an intensive care unit.	Vaccine. 2015 Nov 4;33(44):6017-24.
33	Namikawa T	外科1	Transcatheter arterial embolization of ruptured inferior phrenic artery pseudoaneurysm following completion gastrectomy.	J Gastrointest Surg. 2015 Aug;19(8):1561-2.
34	Kitagawa H	外科1	Pharmacokinetics of active components of Yokukansan, a traditional Japanese herbal medicine after a single oral administration to healthy Japanese volunteers: A cross-over, randomized study.	PLoS One. 2015 Jul 7;10(7):e0131165.
35	Kitagawa H	外科1	Pharmacokinetic profiles of active ingredients and its metabolites derived from Rikkunshito, a ghrelin enhancer, in healthy Japanese volunteers: A cross-over, randomized study.	PLoS One. 2015 Jul 17;10(7):e0133159.
36	Namikawa T	外科1	Recent advances in near-infrared fluorescence-guided imaging surgery using indocyanine green.	Surg Today. 2015 Dec;45(12):1467-74.
37	Namikawa T	外科1	Laparoscopic cholecystectomy for a patient with left-sided gallbladder.	Surg Technol Int. 2015 May;26:120-3.
38	Namikawa T	外科1	Clinical applications of 5-aminolevulinic acid-mediated fluorescence for gastric cancer.	World J Gastroenterol. 2015 Aug 7;21(29):8769-75.
39	Namikawa T	外科1	Laparoscopic endoscopic cooperative surgery as a minimally invasive treatment for gastric submucosal tumor.	World J Gastrointest Endosc. 2015 Oct 10;7(14):1150-6.
40	Namikawa T	外科1	Laparoscopy-assisted distal gastrectomy for multiple adenocarcinomas in intrathoracic upside-down stomach.	Asian J Endosc Surg. 2016 Feb;9(1):57-60.
41	Munekage M	外科1	Mucinous cystadenocarcinoma of the pancreas with anaplastic carcinoma in a Jehovah's Witness patient: A case report and review of the literature.	Mol Clin Oncol. Epub 2016 Jan 27.
42	Toriie S	外科1	Evaluation of the minimally invasive parathyroidectomy in patients with primary hyperparathyroidism: A retrospective cohort study.	Ann Med Surg (Lond). 2016 Mar 10;7:42-7.
43	Nishimori H	外科2	Cerebral infarction occurs particularly in patients with porcelain aorta.	J Thorac Cardiovasc Surg. 2015 Sep;150(3):744-5.
44	Kuriyama M	外科2	Reconstruction using a divided latissimus dorsi muscle flap after conventional posterolateral thoracotomy and the effectiveness of indocyanine green-fluorescence angiography to assess intraoperative blood flow.	Surg Today. 2016 Mar;46(3):326-34.
45	Yamamoto M	外科2	Efficacy of Intraoperative HyperEye Medical System Angiography for Coronary Artery Bypass Grafting.	Surg Today. 2015 Aug;45(8):966-72.
46	Hirohashi K	外科2	Photothermal Ablation of Human Lung Cancer by Low-power Near-Infrared Laser and Topical Injection of Indocyanine Green.	J Bronchology Interv Pulmonol. 2015 Apr;22(2):99-106.

47	Tashiro M	外科2	Multiple organ embolization with vegetation on an elephant trunk graft.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2015 Jun 30.
48	Orihashi K	外科2	Mesenteric ischemia in acute aortic dissection.	Surg Today. Epub 2015 May 30.
49	Handa T	外科2	Maximal blood flow acceleration analysis in the early diastolic phase for in situ internal thoracic artery bypass grafts: a new transit-time flow measurement predictor of graft failure following coronary artery bypass grafting.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2015 Apr;20(4):449-57.
50	Yatabe T	麻酔科	Drug fever caused by propofol in the intensive care unit.	J Anesth. 2015 Oct;29(5):786-9.
51	Yatabe T	麻酔科	Lactic acidosis and asymptomatic hypoglycaemia due to plasmablastic lymphoma.	Anaesth Intensive Care. 2015 May;43(3):416-7.
52	Yatabe T	麻酔科	Lower Body Mass Index is associated with Hospital Mortality in Critically Ill Japanese Patients.	Asia Pac J Clin Nutr. 2016;25(3):534-7.
53	Yatabe T	麻酔科	A case of perioperative glucose control by using an artificial pancreas in a patient with glycogen storage disease.	J Artif Organs. 2016 Mar;19(1):100-3.
54	Kawano T	麻酔科	A comparison of midazolam and dexmedetomidine for the recovery of serotonin syndrome in rats.	J Anesth. 2015 Aug;29(4):631-4.
55	Kawano T	麻酔科	Impact of Preoperative Environmental Enrichment on Prevention of Development of Cognitive Impairment following Abdominal Surgery in a Rat Model.	Anesthesiology. 2015 Jul;123(1):160-70.
56	Yatabe T	麻酔科	Successful treatment of hyperkalaemia with insulin therapy using a closed-loop glycaemic control device.	Anaesth Intensive Care. 2016 Mar;44(2):294-5.
57	Okanoue Y	整形外科	Less invasive modified Spitzzy shelf procedure for patients with dysplasia of the hip.	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2015 May;25(4):789-92.
58	Izumi M	整形外科	Less deep vein thrombosis due to transcutaneous fibular nerve stimulation in total knee arthroplasty: a randomized controlled trial.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2015 Nov;23(11):3317-23.
59	Fukuda K	眼科	Prevention of allergic conjunctivitis in mice by a rice-based edible vaccine containing modified Japanese cedar pollen allergens.	Br J Ophthalmol. 2015 May;99(5):705-9.
60	Ishida W	眼科	Inhibition by the Antimicrobial Peptide LL37 of Lipopolysaccharide-Induced Innate Immune Responses in Human Corneal Fibroblasts.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2016 Jan 1;57(1):30-9.
61	Taisuke K	耳鼻咽喉科	Efficacy and Safety of Transcanal Endoscopic Ear Surgery for Congenital Cholesteatomas: A Preliminary Report.	Otol Neurotol. 2015 Dec;36(10):1644-50.
62	Nonaka M	脳神経外科	Elevated cell invasion in a tumor sphere culture of RSV-M mouse glioma cells.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2015;55(1):60-70.

63	Shimizu T	脳神経外科	Possible inhibitory role of endogenous 2-arachidonoylglycerol as an endocannabinoid in (±)-epibatidine-induced activation of central adrenomedullary outflow in the rat.	Neuropharmacology. 2015 Aug;95:278-89.
64	Masahira N	脳神経外科	A direct aspiration first pass technique for retrieval of a detached coil.	BMJ Case Rep. 2015 Nov 6;2015. pii: bcr2015012039.
65	Masahira N	脳神経外科	A direct aspiration first pass technique for retrieval of a detached coil.	J Neurointerv Surg. 2015 Nov 13. pii: neurintsurg-2015-012039rep.
66	Nakai E	脳神経外科	Use of fat-suppressed T2-weighted sagittal images after infusion of excess saline into the subarachnoid space as a new diagnostic modality for cerebrospinal fluid hypovolemia: technical note.	J Neurosurg. 2016 Feb;124(2):580-3.
67	Inoue K	泌尿器科	Oral 5-aminolevulinic acid mediated photodynamic diagnosis using fluorescence cystoscopy for non-muscle-invasive bladder cancer: A randomized, double-blind, multicentre phase II/III study.	Photodiagnosis Photodyn Ther. 2015 Jun;12(2):193-200.
68	Fukuhara H	泌尿器科	Performance of 5-aminolevulinic-acid-based photodynamic diagnosis for radical prostatectomy.	BMC Urol. 2015 Aug 1;15:78.
69	Fukuhara H	泌尿器科	The Utility of a Flexible Fluorescence-Cystoscope with a Twin Mode Monitor for the 5-Aminolevulinic Acid-Mediated Photodynamic Diagnosis of Bladder Cancer.	PLoS One. 2015 Sep 2;10(9):e0136416.
70	Wei S	泌尿器科	Silencing of ATPase Inhibitory Factor 1 Inhibits Cell Growth via Cell Cycle Arrest in Bladder Cancer.	Pathobiology. 2015;82(5):224-32.
71	Kamada M	泌尿器科	Urinary laminin-γ 2 is a novel biomarker of non-muscle invasive urothelial carcinoma.	Cancer Sci. 2015 Dec;106(12):1730-7.
72	Karashima T	泌尿器科	Chromophobe renal cell carcinoma, eosinophilic variant with papillary growth: a case report.	Int J Clin Exp Pathol. 2015 Oct 1;8(10):13590-5.
73	Inoue K	泌尿器科	The clinical trial on the safety and effectiveness of the photodynamic diagnosis of non-muscle-invasive bladder cancer using fluorescent light-guided cystoscopy after oral administration of 5-aminolevulinic acid (5-ALA).	Photodiagnosis Photodyn Ther. 2016 Mar;13:91-6.
74	Shimamoto T	泌尿器科	Pathological risk factors in upper urinary tract cancer.	Asia Pac J Clin Oncol. 2016 Mar;12(1):e179-88.
75	Naoya K	歯科口腔外科	Complete remission of Merkel cell carcinoma on the upper lip treated with radiation monotherapy and a literature review of Japanese cases.	World J Surg Oncol. 2015 Apr 17;13:152.
76	Shinya S	歯科口腔外科	Application of a Persistent Heparin Treatment Inhibits the Malignant Potential of Oral Squamous Carcinoma Cells Induced by Tumor Cell-Derived Exosomes.	PLoS One. 2016 Feb 5;11(2):e0148454.
77	Maeda H	がん治療センター	Rarity of late anastomotic leakage after low anterior resection of the rectum.	Int J Colorectal Dis. 2015 Jun;30(6):831-4.
78	Maeda H	がん治療センター	Evaluation and treatment of malignant ascites secondary to gastric cancer.	World J Gastroenterol. 2015 Oct 21;21(39):10936-47.

79	Sugiura T	検査部	Department of Clinical Laboratory, University of Kochi Hospital.	Heart Vessels. 2015 Sep;30(5):642-6.
80	Nishida, Y	検査部	Intrinsic characteristics of Min proteins on the cell division of <i>Helicobacter pylori</i> .	FEMS Microbiol Lett. 2016 Mar;363(6): pii: fnw025.
81	Yoshie N	検査部	Genotyping <i>Giardia intestinalis</i> using DNA extracted from long-term-preserved human specimens stained with chlorazol black E.	Jpn J Infect Dis. Epub 2015 Aug 7.
82	Yoshihisa M	検査部	Clinical utility of transthoracic echocardiography for screening abdominal aortic aneurysm: a prospective study in a Japanese population.	Cardiovasc Ultrasound. 2016 Feb 12;14:8.
83	Nakai M	薬剤部	Bangle (<i>Zingiber purpureum</i>) Improves Spatial Learning, Reduces Deficits in Memory, and Promotes Neurogenesis in the Dentate Gyrus of Senescence-Accelerated Mouse P8.	J Med Food. Epub 2016 Feb 1.
84	Kiyo M	看護部	Questionnaire survey on the use of a novel artificial pancreas by intensive care unit nurses.	J Artif Organs. 2015 Jun;18(2):162-5.
85	Tomoaki A	リハビリテーション部	A new method for characterizing hand dysfunction in cervical spondylotic myelopathy: a preliminary study.	Spinal Cord. 2016 Mar;54(3):221-5.

小計 7

合計 85

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会の構成、倫理委員会の運営、審査手順、有害事象対応、各種報告について、記録の保存・公表	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 3 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 対象者の範囲、マネージメントの対象、マネージメント委員会の設置、調査、資料の保存、学外への情報公開	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 2 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 3 回
・ 研修の主な内容 臨床研究概論、研究デザイン、統計手法、臨床研究倫理、被験者保護、利益相反、データマネージメント、品質管理/品質保証、法規指針、等	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

・ NASH に関するベザフィブレート治療 ・ 拡大大腸内視鏡の早期大腸癌診断 ・ 原発性胆汁肝硬変に対するベザフィブレート治療 ・ 原発性肝癌に対するラジオ波熱凝固療法 ・ virtual sonography を用いた肝癌の局所治療 ・ 難治性関節リウマチに対する生物製剤治療 ・ 難治性関節リウマチに対する生物製剤治療 ・ 難治性膠原病に対する血液浄化療法 ・ 甲状腺穿刺細胞診 ・ 内分泌負荷試験の実施 ・ 経皮的腎生検 ・ 持続皮下インスリン注入療法 (CSII) の導入 ・ 持続血糖測定装置 (CGMS) の実施 ・ 同種骨髄移植 ・ 自家末梢血幹細胞移植 ・ 骨髄採取術 ・ DIC の診断・治療 ・ 間質性肺炎に対する pirfenidone 療法 ・ 超音波気管支鏡を用いた気管支鏡検査 ・ 超音波気管支鏡を用いた経気管支リンパ節吸引細胞診検査 ・ ナビゲーションシステムを用いた気管支鏡検査 ・ 非小細胞肺癌に対する免疫チェックポイント阻害療法 ・ 冠動脈造影、感度婦脈インターベンション ・ デバイス植え込み、アブレーション治療 ・ 小児腎生検 ・ 小児腹膜透析 ・ 小児心臓カテーテル検査 ・ 治療抵抗性うつ病に対する修正型パルス波電気けいれん療法 ・ 治療抵抗性統合失調症に対する修正型パルス波電気けいれん療法 ・ 乾癬に対する生物学的製剤による治療 ・ エキシマランプによる円形脱毛症の治療 ・ 多発性円形脱毛症に対するミニパルス療法 ・ 病理勉強会 ・ 英文研究論文抄読会 ・ 紫外線発癌におけるタクロリムス軟膏の影響 ・ 乾癬とメタボリックシンドロームの関与 ・ 質量分析イメージングを用いた皮膚生体内分子の局所解析 ・ 膠原病皮膚病変に対するヒドロキシクロロキンの臨床評価 ・ 中性脂肪蓄積心血管症の診断法の確立 ・ 非侵襲的冷却脂肪溶解術の臨床効果の検討 ・ ベセルナクリーム外用治療の自己免疫疾患に与える影響の検討 ・ パゾパニブによる血管肉腫の治療 ・ ニボルマブによる悪性黒色腫の治療 ・ ベムラファニブによる悪性黒色腫の治療 ・ 皮膚 T 細胞リンパ腫に対する新規薬剤を用いた治療 ・ 胃癌に対する腹腔鏡下手術 ・ 食道癌に対する胸腔鏡下手術 ・ 大腸癌に対する腹腔鏡下手術 ・ 原発性肝癌に対する広範囲肝切除 ・ 膵癌に対する膵頭十二指腸切除 ・ 乳癌に対するセンチネルリンパ節生検 ・ 血管の露出、遮断、切開、吻合手技 ・ 心タンポナーデの手術適応判断と心嚢ドレナージ手術 ・ 末梢動脈疾患に対する血管内治療 ・ 急性動脈閉塞症の鑑別診断と緊急血栓摘除術 ・ ペースメーカー植込み手術 ・ 超音波気管支鏡下縦隔リンパ節生検 ・ 抗がん剤感受性試験を用いたオーダーメイドがん化学療法 ・ 3DCT 画像を応用した対表イメージングによる低侵襲手術 ・ 完全内視鏡下胸部外科手術 ・ 痛みの地域差 ・ 徳島大学病院における ERAS への取り組み-PONV と糖負荷について- ・ 筋弛緩効果残存と術後呼吸器合併症 ・ Introduction of Vascular Physiology ・ ICU 患者のせん妄と認知機能障害 ・ 希釈式自己血輸血 (HAT) の推進 ・ アルツハイマー型認知症創薬への挑戦 ・ 麻酔科学の臨床と研究-その面白さとこれから目指すもの- ・ 婦人科骨盤腔内視鏡下手術 ・ 閉経女性における虚血性心疾患の発症予防を目的としたホルモン補充療法 ・ 体外受精 ・ 子宮内膜症の免疫学的診断 ・ 高齢者の頸部脊髄症に対して電気診断に基づいて行うピンポイント手術 ・ ナビゲーションシステムを用いた上位頸椎部スクリュー固定 ・ 頸椎後縦靱帯骨化症に対する顕微鏡視下前方除圧固定術 ・ 腰椎椎間板ヘルニアに対する内視鏡手術 ・ 骨粗鬆症性椎体骨折偽関節に対する小皮切ペースト状人工骨充填術 ・ 腎筋を侵襲しない前方アブローチ人工股関節手術 ・ 股関節臼蓋形成不全に対する低侵襲臼蓋形成術 ・ 転移性骨腫瘍に対する MR ガイド下収束超音波治療 ・ 末梢神経電気刺激法による術中 DVT 予防法 ・ 手根管症候群の内視鏡手術 ・ 膝靱帯損傷に対する関節鏡下靱帯再建術 ・ 涙道内視鏡手術 ・ 加齢黄斑変性に対する光線力学的療法 ・ 眼内内視鏡を用いた硝子体手術 ・ 脳動脈塞栓術 ・ 解離性脳動脈瘤塞栓術 ・ 内頸動脈-海綿静脈洞塞栓術 ・ 持続脳室ドレナージ下の脳圧モニタリング ・ 術中標本からの RNA 抽出 ・ ニューロナビゲーションを用いた開頭腫瘍摘出術 ・ 内頸動脈狭窄症に対するステント留置術 ・ 遺伝性腎癌の遺伝子診断 ・ 前立腺癌の密封小線源永久挿入療法 ・ 前立腺癌の高線量率組織内照射療法 ・ 前立腺癌のロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術 ・ 膀胱癌の光力学的診断 ・ 頭頸部癌に対するリザーバー留置超選択的動注療法 ・ インプラント ・ 口腔癌のセンチネルリンパ節生検 ・ 進行大腸癌に対する D3 リンパ節郭清を伴う腹腔鏡下補助下手術 ・ 胃癌に対する腹腔鏡補助下手術 ・ 腹腔鏡下胃切除術における体内吻合術 ・ 単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術 ・ ロボット支援腹腔鏡下直腸切除術 ・ ロボット支援腹腔鏡下胃切除術

2 研修の実績

研修医の人数	50 人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
小野 正文	内科（消化器）	准教授	25 年	
岩崎 信二	内科（消化器）	准教授	29 年	
廣瀬 享	内科（消化器）	助教	16 年	
水田 洋	内科（消化器）	助教	17 年	
寺田 典生	内科（内分泌代謝・腎臓）	教授	31 年	
西山 充	内科（内分泌代謝・腎臓）	准教授	22 年	
藤本 新平	内科（内分泌代謝・腎臓）	教授	24 年	
大西 広志	内科（血液・呼吸器）	助教	18 年	
窪田 哲也	内科（血液・呼吸器）	准教授	24 年	
砥谷 和人	内科（血液・呼吸器）	講師	23 年	
池添 隆之	内科（血液・呼吸器）	講師	22 年	
谷岡 克敏	内科（老年病・循環器）	助教	18 年	
馬場 裕一	内科（老年病・循環器）	助教	19 年	
弘田 隆省	内科（老年病・循環器）	助教	16 年	
藤枝 幹也	小児科	教授	31 年	
山本 雅樹	小児科	助教	17 年	
森信 繁	精神科	教授	33 年	
佐野 栄紀	皮膚科	教授	32 年	
山上 卓士	放射線科	教授	25 年	
花崎 和弘	外科（一）	教授	31 年	
杉本 健樹	外科（一）	准教授	30 年	
並川 努	外科（一）	講師	24 年	
北川 博之	外科（一）	助教	12 年	
岡本 健	外科（一）	講師	23 年	
西森 秀明	外科（二）	准教授	28 年	
山本 正樹	外科（二）	助教	15 年	
穴山 貴嗣	外科（二）	講師	19 年	
横山 正尚	麻酔科	教授	34 年	
泉谷 知明	産科婦人科	講師	22 年	
池上 信夫	産科婦人科	講師	23 年	
前田 長正	産科婦人科	教授	30 年	
池内 昌彦	整形外科	教授	20 年	
福島 敦樹	眼科	教授	25 年	
兵頭 政光	耳鼻咽喉科	教授	32 年	
小林 泰輔	耳鼻咽喉科	准教授	28 年	
上羽 哲也	脳神経外科	教授	27 年	
執印 太郎	泌尿器科	教授	39 年	
井上 啓史	泌尿器科	准教授	26 年	
山崎 一郎	泌尿器科	講師	23 年	
山本 哲也	歯科口腔外科	教授	30 年	
長野 修	救急科	教授	34 年	
小林 道也	がん治療センター	教授	31 年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
管理責任者氏名	病院長 横山 彰仁	
管理担当者氏名	総務企画課長 高橋 聡 医事課長 都築 泰仁 総務課長 泉 紀江 薬剤部長 宮村 充彦 放射線部長 山上 卓士	医療安全管理部長 兵頭 政光 感染制御部長 武内 世生 臨床工学部長 上羽 哲也 診療情報管理室長 上羽 哲也

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医事課	病院日誌・各課診療日誌は電子媒体で院内Webにより参照可能。その他の諸記録は電子カルテとして一元管理。電子カルテ以前の紙媒体の診療記録は外来・入院別に一患者一ファイル方式として病歴室に保管。
		各科診療日誌	医事課	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	医事課	
		看護記録	医事課	
		検査所見記録	医事課	
		エックス線写真	放射線部	
		紹介状	医事課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医事課	
		従業者数を明らかにする帳簿	総務企画課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務企画課	
		高度の医療の研修の実績	総務企画課	
		閲覧実績	総務企画課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	会計課及び薬剤部	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務企画課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	(H29. 4. 1設置予定)
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	(H29. 4. 設置予定)
		監査委員会の設置状況	(H29. 4. 設置予定)
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	(H29年度から実施予定)
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
職員研修の実施状況	(H29年度から実施予定)		
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	(H29年度から実施予定)		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	医学部・病院事務部長 西村 仁秀	
閲覧担当者氏名	総務企画課長 高橋 聡	
閲覧の求めに応じる場所	医事課 医事相談室	
閲覧の手続の概要		
諸記録の閲覧を申請する場合は、閲覧申請書を総務企画課に提出する。		
諸記録の閲覧を許可した場合は、閲覧許可書を交付のうえ、閲覧場所において閲覧を行うようにしている。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医 師	延	0件
	歯 科 医 師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	①・無
- 指針の主な内容： - 安全管理に関する基本的考え方（安全管理の体制確保という総合的観点から） - 医療に係る安全管理のための委員会その他組織に関する基本事項 - 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針 - 医療に係る安全の確保を目的とした、事故報告等の改善のための方策に関する基本方針 - 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 - 患者や第三者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針 - 患者からの相談への対応に関する基本方針 - 医薬品と医療機器安全管理に関する基本方針 - その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
- 設置の有無（①・無） - 開催状況：年 1 2 回 - 活動の主な内容：医療安全管理委員会 (1) 高知大学医学部附属病院医療安全管理部規則（平成16年5月26日施行）第3条に定める事項に関するものを審議する。 (2) 報告のあったインシデントの分析及び影響度レベルの判定に関するものを審議する。 (3) 判定した影響度レベルが 3 b 以上のものについて、院内医療問題調査委員会への報告に関するものを審議する。 (4) インシデントごとの解決策及び再発防止策等の企画・立案に関するものを審議する。 (5) 医療安全管理体制システム及びマニュアルの見直しに関するものを審議する。 (6) 研修会等の企画・立案に関するものを審議する。 (7) 審議結果のリスクマネジメント担当者会議を通じた周知徹底方策に関するものを審議する。 (8) その他安全管理に関するものを審議する。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 4 5 回
- 研修の主な内容： 「医療安全の基本」（同内容 4 回） 「平成 2 6 年度インシデント報告」（同内容 4 回） 「苦情対応について」（1 回） 「投薬事故防止のために」（同内容 4 回） 「後発医薬品に関わる医薬品安全管理説明会」（同内容 4 回） 「平成 2 7 年度上半期インシデント報告」（同内容 4 回） 「医療安全管理週間 安全・安心な医療」（同内容 5 回） 「医療ガス講習会」（1 回） 「副作用対応を含めた放射線療法・化学療法に関する研修」（1 回） 「がん化学療法薬の曝露対策について 一点滴・注射の場面を中心に」（1 回） 「医療事故防止のために チームのコミュニケーション」（同内容 4 回） 「投薬事故防止のために」（同内容 4 回） 「高齢入院患者における不眠対応の実践 一せん妄対策も含めて」（1 回） 「ドレーンチューブ管理」（同内容 4 回） 「みんなが誰かのゲートキーパー」（1 回） 「南海トラフ地震 被害想定と医療救護計画」（1 回） 「医療事故調査制度について」（1 回）	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容:
 - ・ 各部署において複数診療科や多職種でM&Mカンファレンスやデスカンファレンスを開催し、実施した医療行為や経過について振り返りを行っている。
 - ・ 各部署リスクマネジャーが問題点を分析し、改善策・影響度レベルを含め報告を行う。事例内容によっては分析方法の演習も実施し、リスクマネジャーの分析力向上を図る。
 - ・ 医療安全管理部においては、各部署から報告のあったインシデントレポートの分析状況及び影響度レベルの妥当性を複数のメンバーによりチェックし、分析が不十分なものや関連会議での検討を要するものを抽出のうえ、専任リスクマネジャーが調査し、必要に応じて関連会議で検討する。
 - ・ 検討については、主に医療安全管理委員会で検討するが、必要に応じワーキンググループを設置して改善策を検討のうえ、リスクマネジメント担当学会議で検討する場合もある。また、更なる検討が必要と認められる事例は、院内医療問題調査委員会に諮る。
 - ・ 医療安全管理部のコアメンバーによるチームミーティングを週一回開催し、重要な事例や気になる事例についての問題点の分析を行っている。
 - ・ 医療機器の不具合情報、医薬品による副作用報告等を医薬品医療機器総合機構(PMDA)に報告する。
 - ・ インシデントによる早急な改善策や注意喚起、周知を図るためリスクマネジメントニュースを発行している。
 - ・ 病棟巡視を行って、その結果を病棟に示し、注意・改善を促している。
 - ・ 報道された医療事故等の要約を全部署に配布し、事故防止について注意喚起している。
 - ・ 平成27年10月に施行された医療事故調査制度について、医療安全管理研修会を開催して病院職員へ周知を行っている。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	⑦・無
- 指針の主な内容： - 院内感染対策に関する基本的考え方 - 院内感染対策のための委員会その他組織に関する基本的事項 - 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針 - 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 - 院内感染発生時の対応に関する基本方針 - 患者さんや第三者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針 - その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 1 回
- 活動の主な内容： - 審議事項 - 感染の発生及びその感染経路の調査に関すること - 感染予防に係る情報の収集に関すること - 感染予防の実施、監視及び指導に関すること - 感染症発生時の措置に関すること - 院内職員の教育及び啓発に関すること - 消毒剤等の使用に関すること - その他感染予防に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 1 回
- 研修の主な内容： - HIV感染症の実際 - 発熱について - おきたら大問題になる感染症への備え～グローバル時代の”現場の”感染症対策～ - 針刺し時のHIV感染防止対策 - 術後感染予防 - MRSA感染症 - 血管内留置カテーテル関連血流感染予防 - 病院職員の健康管理 - 輸入感染症 - 手術・化学療法の前に口腔ケアをやっていますか？ - 寄生虫感染症について - 下痢の患者さんで便培養が必要なとき/不要なとき～細菌性腸炎の診かた・考え方～ - 口腔ケア -実習をします- - 当院の針刺し切創・粘膜曝露の現状 - 風疹について - クロストリジウム・ディフィシル (2回開催) - 敗血症の治療ガイドライン - プレセプシン検査について - 肝移植を目指して今日まで-3H and 3A for the patient- - 肝胆膵外科-ささやかな工夫- - CRE (カルバペネム耐性腸内細菌科細菌) up-date - 多剤耐性病原細菌の出現機構 - 消毒剤を正しく使うための基礎知識 - 臨床上問題となる薬剤耐性菌について - その抗菌薬、本当に必要ですか？-抗菌薬の適正使用と感染症対策①～感染性疾患患者の見つけ方～ - その抗菌薬、本当に必要ですか？-抗菌薬の適正使用と感染症対策②～多剤耐性菌対策概論～ - 重症疾患の栄養管理 - 給食業務における衛生管理-安全な食を提供するには-	

- ・手指衛生のポイント
 - ・2014年 血液培養サーベイランス報告 2015年 検出菌報告
- その他、研修医、新採用看護師に対しても実施した

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 1. 感染情報レポートは、週報（毎週1回）、月報（毎月1回）、年報（毎年1回）作成し、感染症法に基づく病原体（MRSA、ペニシリン耐性肺炎球菌、感染性胃腸炎の病原菌、薬剤耐性緑膿菌など）、β-ラクタマーゼ非産生アンピシリン耐性ヘモフィルス、3世代セフェム耐性基質拡散型β-ラクターゼ産生菌、クロストリジウム・ディフィシル菌、流行時期に応じてインフルエンザ、ノロウイルスなどの検出状況を示している。
 2. MRSAについては、サーベイランスを行い、感染と保菌、院内発生と持込を診療科別、病棟別に示している。
 3. これらの情報は、ベースラインを把握し、菌検出状況に応じて現場に出向き感染対策を徹底することによって、アウトブレイクの予防と早期察知に役立て、さらに感染対策実施状況の評価に活用している。
 4. 感染管理部に報告が必要な病原体として、多剤耐性緑膿菌、バンコマイシン耐性腸球菌、基質拡散型β-ラクターゼ産生菌、ペニシリン耐性肺炎球菌、クロストリジウム・ディフィシル菌、下痢および嘔吐、食中毒、結核および結核の疑い、インフルエンザ、麻疹、水痘・带状疱疹、風疹、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎、百日咳、疥癬をあげている。
 5. 診療科、病棟、外来、検査部から専任看護師に報告があれば、
 - ① 専任看護師は直ちに部署に出向き、患者発生状況を調査する
 - ② 感染が拡大しないように具体的な感染対策を指導する
 - ③ 接触者（患者、面会者、医療従事者）を確認し、必要な予防策を講じる
 - ④ 医師、看護師、感染管理部合同カンファレンスを開催し、情報の共有と対策の徹底を図る
 - ⑤ 随時専任看護師から感染対策委員会委員長に報告する
 - ⑥ 各診療科、病棟から所属長に報告する
 - ⑦ 必要に応じて保菌者スクリーニング、環境培養、詳細な疫学調査を実施する
 6. 週1回、感染対策ラウンド
 7. 週1回、感染症カンファレンス
 8. 全部署の速乾性手指消毒薬使用量のモニタリング

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る
措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 18 回
- 研修の主な内容： - 麻薬・向精神薬の使い方（1回、対象：研修医） - 薬剤の基礎知識—静脈内注射を安全に使用するために（1回、対象：2年目以降の看護師） - 平成27年度 医療安全管理研修会「投薬事故防止のために」（計4回、対象：全職員） - 後発医薬品に関わる医薬品安全管理説明会（計4回、対象：全職員） - 平成27年度 医療安全管理研修会「安全・安心な医療」（計4回、対象：全職員） - 平成27年度 医療安全管理研修会「投薬事故防止のために」（計4回、対象：全職員）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
- 手順書の作成（①・無） - 業務の主な内容： - 医薬品の採用・購入に関する事項 - 医薬品の管理に関する事項 - 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤までに関する事項 - 医薬品の安全使用に係わる情報の取扱いに関する事項 - 院内特殊製剤の取扱いに関する事項 - 他施設（医療機関・薬局等）との連携に関する事項 - 医薬品安全性情報等の管理体制の充実に関する事項 - 放射性医薬品の取扱いに関する事項	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医薬品に係る情報の収集の整備（①・無） - その他の改善のための方策の主な内容： （情報収集の方法 ※未承認等の医薬品の情報その他の情報の収集） ①添付文書情報（医療用医薬品） ②添付文書情報（一般用医薬品） ③注射剤の配合変化 ④緊急安全性情報（イエローレター） ⑤安全性速報（ブルーレター） ⑥医薬品・医療機器等安全性情報（厚生労働省発行） ⑦薬品安全対策通知 ⑧使用上の注意の改訂情報 ⑨厚生労働省発表資料（医薬品等関連）⑩DSU（医薬品安全対策情報） ⑪急性中毒情報ファイル ⑫重篤副作用疾患別対応マニュアル ⑬妊婦授乳婦と薬 ⑭回収情報（医薬品）等を参考とする。 （情報の周知方法） - 全学グループウェアの掲示板、部門ライブラリー、医薬品情報参照（MDview） - 院内通知文書 - DIニュースの発行 - 各種勉強会、講習会等 - 病棟担当薬剤師により各病棟、診療科のカンファレンス等にて連絡を行う。	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年100回
研修の主な内容： 全職員、新人看護師、研修医等を対象として、安全使用において技術の習得が必要と考えられる機器の適正な使用方法に関する研修、インシデント対策に関する研修、新規導入機器の導入に関する研修等を実施。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
- 医療機器に係る計画の策定 (①・無) - 保守点検の主な内容： 安全使用において、特に技術の習得が必要と考えられる機器を含む人工呼吸器、人工心肺装置、輸液ポンプ等の定期点検、日常点検を実施し、機器管理システムにて機器名、製造番号、点検・修理履歴、保守点検予定日等を機器毎にシステム管理を行っている。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医療機器に係る情報の収集の整備 (①・無) - その他の改善のための方策の主な内容： 使用部署に取扱説明書を整備。 医療機器製造販売業者、関連学会、医薬品医療機器総合機構等から収集した安全情報は、病院の電子掲示板に掲示することで情報の周知を図っている。また、緊急を要する場合は、直接関係部署等に出向き説明を行い情報の周知を行っている。さらに、院内で発生した医療機器のインシデント報告に対しても、その安全対策、対応策等を検討し、研修会やリスクマネジメントニュース等で周知を実施している。 院内で確認された医療機器の不具合については、病院管理者への報告を行い、必要に応じて医薬品医療機器総合機構（PMDA）に医療機器安全情報として報告を行うようにしている。	

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	①・無
・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 「高知大学医学部附属病院副病院長に関する規則」を改正（平成28年10月1施行）し、医療安全管理担当副病院長が、医学部附属病院における医療安全管理責任者の任を担うことを明記した。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	①（ 1 名 ）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成。 医療従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施。 医薬品の業務手順書に基づく業務の実施。 医薬品の安全使用のため必要となる情報の収集。 医薬品の安全確保を目的とした改善のための方策の実施。 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 添付文書情報（医療用医薬品）、添付文書情報（一般用医薬品）、注射剤の配合変化、緊急安全性情報（イエローレター）、安全性速報（ブルーレター）、医薬品・医療機器等安全性情報（厚生労働省発行）、薬品安全対策通知、使用上の注意の改訂情報、厚生労働省発表資料（医薬品等関連）、DSU（医薬品安全対策情報）、急性中毒情報ファイル、重篤副作用疾患別対応マニュアル、妊婦授乳婦と薬、回収情報（医薬品）等を参考に情報収集を行う。 全学グループウェアの掲示板、部門ライブラリー、医薬品情報参照（MDview）、院内通知文書、DI ニュースの発行、各種勉強会、講習会等、病棟担当薬剤師より各病棟、診療科のカンファレンス等で情報の周知を行う。 ・担当者の指名の有無 ①・無	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	①・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ ①・無 ） ・規程の主な内容：「インフォームド・コンセントに関する指針」 1. インフォームド・コンセントの指針 2. インフォームド・コンセントのあるべき姿 3. 説明を必要とする行為とその記録 4. 説明事項 5. 説明方法 6. 診療記録への記録 7. 同意の取得 8. 説明者 9. 説明時、看護師の同席 10. セカンド・オピニオンについて 11. 様式作成 12. 「侵襲性のある行為」とは	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
・活動の主な内容： 「高知大学医学部附属病院診療情報管理室規則」を改正（平成28年10月1日施行）し、診療情報管理室長を医療法施行規則第9条の23第5号の診療録の管理に関する責任者として配置した。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
・所属職員：専従（2）名、専任（2）名、兼任（ ）名 うち医師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（ ）名 うち薬剤師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 ・活動の主な内容： （1）安全管理のための指針の整備及び情報収集に関すること。 （2）重要な検討内容について、患者への対応状況を含め病院長へ報告すること。 （3）重大な問題が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに職員への周知を図ること。 （4）医療事故の防止及び対策に係る調査・分析に関すること。 （5）改善策を立案すること。 （6）改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行うこと。 （7）安全管理に関する教育・研修に関すること。 （8）安全管理に関する連絡調整に関すること。 （9）その他安全管理に関すること。 ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 （ア）専任者は医師・薬剤師の資格を有している。 （イ）医療安全に関する必要な知識を有している。 （ウ）本院の医療安全管理部に所属している。 （エ）本院の医療安全管理委員会の構成員である。 （オ）医療安全対策の推進に関する業務に専ら（常勤職員であって就業時間の5割以上）従事している。 専従の医師1名及び薬剤師1名を平成30年4月1日に配置できるよう検討中。	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無） ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無） ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無） ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無） （平成29年4月1日措置予定）	
⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無） ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無） ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無） ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無） （平成29年4月1日措置予定）	

⑨ 監査委員会の設置状況					有・ ☒ 無
(平成 29 年 4 月 1 日措置予定) ・ 監査委員会の開催状況：年 回 ・ 活動の主な内容： ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ 有・無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ 有・無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法：					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年48件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年1955件
- ・医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - (1) 高知大学医学部附属病院医療安全管理部規則（平成16年5月26日施行）第3条に定める事項に関するものを審議する。
 - (2) 報告のあったインシデントの分析及び影響度レベルの判定に関するものを審議する。
 - (3) 判定した影響度レベルが3b以上のものについて、院内医療問題調査委員会への報告に関するものを審議する。
 - (4) インシデントごとの解決策及び再発防止策等の企画・立案に関するものを審議する。
 - (5) 医療安全管理体制システム及びマニュアルの見直しに関するものを審議する。
 - (6) 研修会等の企画・立案に関するものを審議する。
 - (7) 審議結果のリスクマネジメント担当者会議等を通じた周知徹底方策に関するものを審議する。
 - (8) その他安全管理に関するものを審議する。

⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院への立入り（有（病院名： ）・☒無）
 - ・他の特定機能病院からの立入り受入れ（有（病院名： ）・☒無）
- （平成29年度から実施予定）

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

平成15年4月1日に「高知医科大学医学部附属病院患者相談窓口取扱要領」を制定するとともに、病院玄関インフォメーションに患者相談コーナーを設けた。その後、平成15年10月1日に旧高知大学との統合及び平成16年4月1日の国立大学の法人化に伴う改廃を経て、現在に至る。

相談コーナーに寄せられた事由に対して必要に応じて看護師、リスクマネージャー、医療ソーシャルワーカー、医学部・病院事務部事務職員が単独あるいは複数で対応している。また、相談コーナー以外でも電話、病院ホームページ、投書箱（院内14箇所設置）に寄せられた相談等にも対応している。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（☒有・無）
- ・窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（☒有・無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（☒有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
- （平成29年度から実施予定）

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・研修の実施状況
- （平成29年度から実施予定）

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	☒ 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構、平成28年 4 月	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 高知大学医学部附属病院ホームページ内の「患者さんへ」、「広報活動」、「病院案内」において、情報発信を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 *がん治療センター 複数の診療科で行われている「がん診療」や「緩和ケアチーム」「外来化学療法」などを一元的に管理し、それぞれの機能が充分発揮されるよう企画調整を行っている。 *光学医療診療部 各疾患分野で内視鏡を用いた診断と治療を専門に行う部門を独立統括し、各診療科との連携を円滑にすることで、内視鏡を用いた専門的な診断と治療の需要に柔軟に対応している。	

(様式第 8)

高大医医発第 1 2 号

平成 2 8 年 9 月 6 日

厚生労働大臣 殿

高知大学医学部附属病院長 横山 彰仁

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

平成 28 年 10 月 1 日措置予定。

副病院長に関する規則等を改正し、医療安全管理担当の副病院長が医療安全管理責任者の任を担うことを明記するよう検討中。

2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

平成 28 年 10 月 1 日措置予定。

医薬品安全管理責任者の活動の充実について、学内規則を検討中。

3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

平成 28 年 10 月 1 日措置予定。

医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置について、学内規則を検討中。

4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

措置済み。

「インフォームド・コンセントに関する指針」（最終改定平成 27 年 11 月）を制定済み。

5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

平成 28 年 10 月 1 日措置予定。

診療録等の管理に関する責任者の配置について、学内規則を検討中。

6. 規則第 9 条の 23 第 1 項第 10 号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するための予定措置

措置済み。

全死亡症例の報告、オカレンス報告、M&Mカンファレンス・デスカンファレンスの実施及び報告について、医療事故防止マニュアルに体制を整備済み。

7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

措置済み。

窓口は、「国立大学法人高知大学におけるコンプライアンス通報等規則」により設置している通報窓口としている。

8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業者の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

平成 29 年 4 月 1 日措置予定。

「医療に係る安全の確保に資する診療の状況把握」、「従事者の医療安全に関する意識の向上の状況の確認」のモニタリングについて、実施方法を検討中。

9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

平成 29 年 4 月 1 日措置予定。

高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置について、既存の院内組織の活用を検討中。

10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

平成 29 年 4 月 1 日措置予定。

平成 27 年 7 月に「高知大学医学部附属病院新規医療技術審査委員会規則」を制定しているが、本年 10 月以降に関係学会から示される予定の「高難度新規医療技術の導入に当たっての基本的な考え方」やガイドラインを参考に検討予定。

11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

平成 29 年 4 月 1 日措置予定。

未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門について、既存の院内組織の活用を検討中。

12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

平成 29 年 4 月 1 日措置予定。

平成 27 年 7 月に「高知大学医学部附属病院新規医療技術審査委員会規則」を制定しているが、今後、高難度新規医療技術と併せて検討予定。

13. 監査委員会を設置するための予定措置

平成 29 年 4 月 1 日措置予定。

他大学と共同して、監査委員会のモデルケースを検討中。

14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立入り及び技術的助言を遂行するための予定措置

平成 29 年度から実施予定。

立入り、受入れの方法や内容については、厚生労働省から示されると説明を受けているが、現在のところまだ示されていない。今後、厚生労働省から示される立入り及び受入れの方法、内容を参考に来年度から行う予定。

15. 職員研修を実施するための予定措置

平成 29 年度から実施予定。

職員研修として取り上げる事例、e-learning の活用を検討中。

16. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

平成 29 年度から実施予定。

国立大学附属病院長会議が実施する研修（今後検討予定）に来年度から参加させる予定。

17. 医療安全管理部門の人員体制

- ・所属職員：専従（2）名、専任（2）名、兼任（ ）名
- うち医師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（ ）名
- うち薬剤師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（ ）名
- うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

18. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

平成 30 年 4 月 1 日措置予定。

専従の医師 1 名及び薬剤師 1 名の人員確保を検討中。